**１－１「学者の落としもの」**

・初期証拠カード「落とした時計」に対して

その他　「路地裏のことなら靴磨きが知っている。彼に聞くといいよ」

・アイテムカード「学者のものらしき時計」に対して

その他　「早く学者さんに届けてあげな」

**１－２「家宝の剣」**

・初期証拠カード「家宝の剣」に対して

商人「ああ、それなら私が持っているよ。そういう事情なら売却を拒むつもりもないし。もちろん、それ相応の対価は払っていただくつもりだが」

　　　**真相カード「剣は商人が」を渡して下さい**。

・証拠カード「商人に借りた」に対して

商人……上と同じ。

**１－３「料理のレシピ」**

・初期証拠カード　「自作レシピ」に対して

商人「ふうん。その料理についてなら私も聞いたことがある。この珍しい香辛料を貴族様に持っていくといい。後は自分でやるだろう。まあこういう話なら本当は、バーのマスターが一番詳しいんだけどね」

　 **証拠カード　「足りなかった材料」を渡してください。**

・「プロのレシピと材料」に対して

他「貴族様の所に行って確かめるといい」

・「足りなかった材料」に対して

他「貴族様の所に行って確かめるといい」

**２－１　狼男**

・初期ハンドアウト「狼男のうわさ」に対して

商人「ああ、あの記者さんの記事ですよね。新聞がよく売れたようで、この前買っていただいた珍種の銀色の子犬の代金を払いに来られました。しかし変ですね、彼は犬嫌いだったはずなのですが……」

**証拠カード「銀色の子犬」を渡す**

・「目撃情報」に対して

他（商人は上と同じ）

・「銀色の子犬」に対して

他（靴磨きは上と同じ）「そーなのかー」

・証拠カード「目撃情報」「銀色の子犬」に対して

他「なら、記者に直接聞いてみればいいのでは？」

**２－２「恋文」**

・初期証拠カード「恋文」に対して

商人「あはは、あれはあんなことになってたのか！……いや済まない。悪いが、私の口からあまり詳しいことを説明するわけにはいかないなあ」

・証拠カード「恋文の出てくる小説」について

商人「そこまで知っているなら教えてあげますが、実はラブレターを書いたのはマスターなんですよ。詳しいことは書いた本人に聞いてみな」

**証拠カード「マスターの冗談」を渡して下さい。**

・証拠カード「マスターの冗談」について

他「そこまでわかってるなら、マスターに行け」

**２－３「チェンジリング」**

・初期証拠カード「読めない本」について

他「読めないから判断のしようがないね……学者さんなら読めるかもしれないが」←学者に誘導して下さい。

・証拠カード「一部訳の台本」について

他「劇？それなら記者さんが特集記事を書いていたような……」←記者への誘導をお願いします。

・証拠カード「スポンサー」について

他「貴族さんの所へ行ったほうがいいのでは……」←貴族への誘導をお願いします。

**２－４「通り魔」**

・初期証拠カード「いきなりの襲撃」に対して

他「殴られた事件は知らない」と答える

・証言カード「ガールフレンド」に対して

商人「私の娘は貴族からストーカー被害にあっており、悪いとわかっていましたが、娘を守るために彼を殴りました」

**証言カード「ストーカー」を渡してください。**

・証言カード「ストーカー」に対して

他「そうなのか。なら貴族に聞いてみればいいのでは？」

**２－５「無人教室」**

・初期証拠カード「子供が来ない」に対して

商人・マスター「うちの子供は、ちゃんと子供教室にいっているというのだが・・・」

・証拠カード「竜の玉」に対して

他　　　　「竜の玉・・・？なんのことだろうかはわからないけど・・・流行ものなら

　　　　　　新聞記者に聞くのが手っ取り早いんじゃないか？」

・証拠カード　「貴族の所有物」に対して

他　　　「へぇ・・・貴族様は趣味が本当に広いんだなぁ…。

　　　　　あれ？でもなんで子供たちの間で流行っているのだろうか・・・？」

・証拠カード　「子供が来ない」「貴族の所有物」に対して

他　　　　「うーん・・・われわれには推測するしかできないからなぁ・・・

　　　　　　直接貴族様に聞くのがいいのではないだろうか？」

**２－６「笑わない数学者」**

・初期証拠カード「消えた原稿」に対して

商人「原稿かどうかは確認してないけど昨日学者さんとこのお子さんが酒場の方に紙束持って遊びに行くのは見たよ」

**証拠カード「紙束を抱えた息子」を渡して下さい。**

・証拠カード「紙束を抱えた息子」に関して

他「酒場の方に行ったならマスターにでも聴いてみたら？」

・証拠カード「数式の書かれた紙飛行機」に関して

他「学者さんに教えてあげたほうがいいんじゃないのか？」←学者への誘導をお願いします。

**２－７「毒殺」**

・初期証拠カード「アンダーソン氏の死」に対して

商人　　「ボストン氏ですか？事件の少し前に、私の店で変わったものを買いました。とある医者が遊びで作らせた一品物の注射器で、一見ただの万年筆なのですが、注射器が仕込まれてましてね。彼は医者でもありませんし、コレクターでもないのに、何に使うつもりなんでしょうかね？」

**証拠カード「ボストン氏の買い物」を渡して下さい。**

・証拠カード「ボストン氏の買い物」に対して

商人　　「あれ以上のことは何も知りませんよ」

・証拠カード「落ちていた万年筆」に対して

商人　　「ああ、これは間違いなくボストン氏が買っていったものですね」

**２－８「エーシーズ・ハイ」**

・初期証拠カード「キズモノ飛行機」に対して

他「うーん……飛行機と言えば貴族様が好きでしたね。かなりの腕らしいですよ。それと、記者は飛行機関係の記事もたまに書いてるみたいですね」

・証拠カード「貴族説」に対して

他「まずは貴族に話を聞くべきでは？」

・証拠カード　「あの日は病気」に対して

その他「貴族様が違うとなると、心当たりはありませんね」

・証拠カード「目撃証言」に対して

他「貴族様ご本人に聞いた方がいいのでは？」

**２－９「伝説の薬剤師」**

・初期証拠カード　「伝説の薬剤師」

他　「うーん。たしか伝説の無免許薬剤師、って噂だね。詳しいことは・・まぁ、噂なら

　　　記者さんに聞いてみればいいんじゃないかな？」

・「星の形をしたアザ」に対して

他　　「アザですか・・？それも星形の・・・？わかんないですねぇ。」

・「星のアザの持ち主」に対して

他「へぇ・・・そうなのかい？星のアザとは変わってるねぇ。でも、消そうとするほどの理由じゃないね？」

・「靴磨きの薬」に対して

他　「ふーん、そんなことがあったのか」

・「路地裏の治療者」「星のアザの持ち主」に対して

他「・・・うーん。靴磨きさんに直接聞いてみたらいかがでしょうか？」

**２－１０「10年目の浮気？」**

・初期証拠カード「トマスの浮気疑惑」について

商人「トマスか。そう言えばちょっと前に、彼にある指輪職人の居場所を聞かれたな。その職人は10年前にハーカー夫妻の結婚指輪を作った職人で、私とも付き合いがあったんだ。もっとも何年か前に引退してしまって、現在の消息はわからないんだが」

**証拠カード「引退した指輪職人」を渡して下さい。**

・証拠カード「最近あってない」について

商人　「トマスの浮気疑惑」と同様にお願いします。

・証拠カード「引退した指輪職人」について

その他「あの老人ですか……確か実家が記者の家の近くだったので、そっちに帰ったのかもしれません」

・証拠カード「職人の今」について

商人「なるほど、ちょっと待ってくれたまえ……（間）……彼に話を聞いたところ、トマスがつい先日彼の家を訪れて、結婚十周年の記念の品の制作を依頼してきたらしい。散々探し回ったらしく、ひどく疲れた様子だったとか。普通なら引き受けないが、その様子を見て特別に引き受けることにしたと言っていたよ。奥さんに黙っていたのは、記念日当日に驚かせたかったからだそうだ」

**真相カード「結婚十周年の記念品」を渡して下さい。**

**２－１１「届かなかった贈り物」**

・初期証拠カード「紅白の箱」に対して

　他　　「紅白の箱？いや、知らないが・・・。」

・証拠カード「中身は女神像」に対して

　商人「え？女神像？ああ。アレなら数日前に学者様が買っていきましたよ。なんでも、

　　　　ヴィーナスとかいうのがあの像の名前らしいですね。」

　　　**証拠カード「ヴィーナス像」を渡してください。**

・証拠カード「ヴィーナス像」に対して

　他「ヴィーナス像？いや、そんなものは見ていないが・・・」

・証拠カード「裸体像」に対して。

　他「裸体像・・・？そんなものはしらないなぁ。」

・証拠カード「ツケのカタ」に対して

　他　「いや・・酒場のツケが私たちにどう関係あるんで？」

・証拠カード「ギャンブルのベット」に対して

　他　「ああ。マスターと貴族さんはよくギャンブルしてるからね。」

**２－１２「消えたネクタイ」**

・初期証拠カード「ネクタイは商人のもとへ」に対して

商人「そんな話もしたが、実際に私は借りてはいない。別の人と勘違いしたのではないだろうか？」

・証拠カード「マスターの証言」に対して

他「へえ。なるほど。・・それが私に関係あるとは思えないのだが？」

・アイテムカード「ネクタイと領収書」に対して

商人「これは確かにうちの店の領収書だね。サインだってうちの店員のものだ。

　　　あいにくと私はこのネクタイ自体に見覚えはないが。」

・証拠カード「郵便の行方？」に対して

商人「なに？ネクタイを記者が私に送った？しかし、私の手元にはなにも届いてはいないぞ？送ったならなぜ、私の手元には何もないのかね？」

・証拠カード「ネクタイと領収証」「郵便の行方」に対して

商人「ちょっとまってくれ・・・。（間をおいて）・・・どうやら従業員が、仕入れの品と間違えって売ってしまったようだ。あとは私がやっておくよ。」

　　　**真相カード「手違い」を渡してください。**

**２－１３「幽霊屋敷」**

・初期証拠カード「悪霊の噂」について

商人「その噂なら聞いたことがあるよ。うちの子供はお菓子を持って友達とちょくちょく近くまで行っているみたいだね、肝試し気分なんだろうさ」

・証拠カード「買い叩き」について

他「詳しいことは知らないな、記者ならそういうことに詳しいんじゃないか」←事情通の記者に誘導するような発言をお願いします。

・証拠カード「円満な取引」について

全員「円満な取引ならそれでいいじゃないか」

（これ以上この手がかりからは情報が手にはいらないことを伝えて下さい）

・証拠カード「夜中の物音」について

他「誰も居ないのに物音がするなんてなんだか薄気味悪いな」←次に話を聞くNPCを言っているので誘導はなくて良いと思います。

・証拠カード「暗闇の中で子供」について

商人「うちの子が毎日のように屋敷の方へ遊びに行くので不思議に思って問いただしたらあのお屋敷に忍び込んで捨て猫を飼っているんだとさ。なんでも毎日会いにいかないと夜中寂しくて屋敷内を爪でひっかきまわすらしい」

**真相カード「子供たちが屋敷で飼う猫」を渡してください**。

**２－１４「くさきものども」**

・初期証拠カード　「謎の集団」について

他「うーん・・こころあたりはないが・・流行には新聞記者が、裏路地には靴磨きが詳しいよ」

・証拠カード「腐った豆」について

他「腐った豆……？そんなものが食べれるのか？生憎私は料理しないからなぁ……」

（もしかしたらマスターなら知っているかも？　と誘導して下さい）

・証拠カード「黒覆面の男」について

商人「そういえば……酒場からそんな身なりの男が出てきていたことがなんどかあったな……？マスターの知人だろうか？」

**証拠カード「酒場から出現」を渡して下さい。**

・証拠カード「料理依頼」について

他「なんだって、私に貴族様が料理を頼むのさ。そういうのは料理ができる人に頼むだろうよ」

・証拠カード「酒場から出現」について

他「うーん……そんな変な客がいるのか？まさかなぁ……」

・証拠カード「料理依頼」「酒場から出現」について

他「うーん……マスターに聞いてみるのがいんじゃないか？」

**２－１５「紫の薔薇」**

・初期証拠カード「紫の薔薇の君について」

商人「え、探偵さんもあの人の舞台のチケットを？大変申し訳ない、もう完売してしまって…え、違う？紫の薔薇？うちでは取り扱ってないですね。普通の薔薇は赤白黄です。高いお金を出して買うか、品種改良するしかないはず…。そうだ、あそこの靴磨きはいつも、庭仕事の道具を買って行ってるし、聞いてみたらどうですか？」

**証拠カード「庭仕事の道具」を渡す**

・証拠カード「女優の出身」について

他「えっ？あの女優のスキャンダル？・・・なんだただの噂かい」

・証拠カード「貴族の庭園」について

他「知らないなあ…」

・証拠カード「庭仕事の道具」について

他　　　「靴磨き本人に聞いてみてはどうだろうか？」

・全ての証言カードを持って行く

**２－１６「少年の一目惚れ」**

・初期証拠カード「髪飾り」について

商人「その髪飾りなら五日前からウチで独占的に取り扱っているんだが、売れ行きが好調でありがたいことだよ」

**証拠カード「販売は五日前から」入手**

・アイテムカード「高価な落し物」について

他「金の刺繍が入っているしきっと高いものだろう、貴族さんならなにか知っているかもね」（貴族に行くよう誘導して下さい）

・証拠カード「持ち主は貴族の娘」について

他「貰ったものをすぐになくすなんておっちょこちょいだね」←この証拠カードでは次の手がかりが出ないことを伝えてあげてください、ミスリードです。

・証拠カード「きっかけは服装展示会」について

他「詳しいことは知らないな、新聞に載っていたから記者さんなら知っているんじゃないか」

・証拠カード「販売は五日前から」「精巧な人形」の二枚を出された場合

他「それは学者さんに伝えてあげたほうがいいんじゃないか？」

**２－１７「盗まれた首飾りを取り戻して」**

・初期証拠カード「盗まれた首飾り」に対して

商人「確かにうちでは、高級な装飾品も扱ってはいるけれど、ちゃんと鑑定書付きの品です。盗品なんて扱っていませんよ」

　　　多少、狼狽えてるというか、焦りをみせつつ毅然とした態度でお願いします。

・アイテムカード「首飾りの鑑定書」に対して

商人「……！！いや、鑑定書が付いているじゃないか！！盗品のハズがないだろう！！やめてくれ！！」

　　　あー、こいつ絶対なんか知ってるな、って思わせていただければ幸いです。

・証拠カード「問屋がらみの犯罪」に対して

商人「……！！ならば偽の鑑定書だという証拠を持ってきたまえ！！」

・証拠カード「もしかして偽造？」に対して

商人「……！！信用にもかかわるのに、偽の鑑定書なんてつくるわけがないだろう！！

いい加減にしてくれ！！」言い逃れる犯人みたいな感じでお願いします。

・証拠カード「もしかして偽造？」「問屋がらみの犯罪」に関して

商人「……実は私も、あの鑑定書は偽造だと考えているのですが……信用にかかわるため、言うに言えず……そこまでご存じなら私も腹をくくりますが……」

　　　　**証拠カード「鑑定書は偽造」を渡してください。**

・証拠カード「鑑定書は偽造」に対して

他「貴族様の持ち物が盗品だなんて・・・早く教えてあげたら？」

**２－１８「行方不明の看板娘」**

・初期証拠カード「酒場のローラ」に対して

商人「うん？一昨日、いろいろと旅道具を買い込んでいたぞ。旅行にでも行くんじゃないか？」

　　**証拠カード「旅支度」を渡してください。**

・証拠カード「貴族のプロポーズ」に対して

他「ああ……ごく最近の話だよ。2日くらい返事を伸ばして、結局貴族様はフラれたらしい。まぁ、貴族様からプロポーズなんてされたら町娘はビビっちまうよなぁ……OKするならともかく、断るとなると、相手は権力者。ちびるね」

・「赤毛のローラ」に対して

他「赤毛ねえ？そう言えば、記者が赤毛がどうこうという話をしてたような……詳しくは覚えてないが」

・「旅支度」に対して

・証拠カード「ジャックと馬車」に対して

他「ジャックねえ？ローラと関係があるんだとしたら、学者かマスターのどちらかなら知ってるかもな」

・証拠カード「ジャックとローラ」に対して

他「へえ。ローラの彼氏はジャックだったのか。そいつはしらなかった」

・証拠カード「旅支度」「貴族のプロポーズ」「ジャックとローラ」に対して

他　　「ああ……これは。駆け落ちかな……なんにせよ、学者先生に聞くのがいいだろう」

**２－１９「失われた物語」**

・初期証拠カード「本の紛失」に対して

商人　　「あの本に関する調査ですか……。役に立つかはわかりませんが、紛失が発覚した時の状況を説明しましょう。あの時は展覧会後に予定されていたパーティーの開始前で、貴族様とマスター氏、記者氏は既にパーティー会場に入っておりました。私と学者様は展示会場で片付けを手伝っていて、臨時で馬車の御者をやっていた靴磨き氏は、展示会場とパーティー会場の間を往復していたようです」

**証拠カード「アリバイ」を渡して下さい。**

・証拠カード「アリバイ」に対して

・証拠カード「学者の借金」に対して

その他　「聞いたことがある気もするが、詳しくは知らないな」

・証拠カード「持ち物検査」に対して

他「記者の言うとおりですね。私の知る限り、皆検査には協力的でしたよ」

・証拠カード「馬車の故障」に対して

その他　「へえ、そんなことがあったんですか？詳しい話を聞きたかったら靴磨きか学者に聞くべきでしょうね」

・証拠カード「学者が馬車を？」に対して

商人　　「ええ、確かにそれは私の知り合い会社の馬車です。たしかにそれは変ですね。調べてもらいましょう。（少しの間）結果が出たようです。車輪を意図的に外れやすくした痕跡と、馬車の下に小さな箱を取り付けていた痕跡が見つかったそうです」

　　　　　**証拠カード「細工の痕跡」を渡して下さい。**

・証拠カード「細工の痕跡」、「学者の借金」に対して

その他　「そこまで調べが付いているなら、直接学者に問いただすべきでしょう」

**３－１「表紙のない本」**

①「古本探しなら手伝ってもいいけれど、肝心の題名が分からないのでは、難しいかもしれませんね。それと探し主のお名前は何でしょうか？こういうのは依頼人がどこの誰なのかはっきりわかっていた方が、手伝いも増えて探すのが楽でして」

名前を出さない→「そうですか？（訝しむ様子）」

貴族の名前を出す→「では、これを続刊の注文書としておきます。まあ、特別な本でなければじきに見つかるでしょう。貴族様のところへ報告へ行ってくださいな」

**→証拠カード③「本の注文」**

プレイヤーの名前で探してくれと頼まれる**→⑧「流通しない本」**

②「まあ占いの本とかも、あの学者先生は非科学的だってばっさり言っちゃう人だしねえ」

③（貴族のところへ誘導）

④「ああ、古本でも特別な事情があって売れないとか、故人の希望だとかで、売りに出されない本も沢山あるらしいですね」

⑦「一組の呪いの書」を①と同時に出し、マスターが注文者であることを告げるなどして交渉回避

「あれ、そうですか。"まじない"の本ですね。まあいいですよ、じゃあ普通に探しますから」→「やっぱりうちには知ってる人がいないみたいですねえ。誰かが既に持ってるんじゃないですか？」

**→⑧「流通しない本」**

⑤⑥、⑧～「本の内容については分からないですね」

**３－２「読めない手紙」**

・初期証拠カード「友人について」

商人「あの人ですか、私はあまり親しくないのですが……ああでも、この前何かお金が入り用だったらしくて、私の所に借金のお願いをしに来たよ。残念だがお金は信用の問題だからな。貸してはやれんかった。何時だったかな。たしか三週間も前の話だ」

**→証拠カード「金の無心」**

ここより先の情報については、特に書いてなければ友人関係以外は商人は「私にはわかりませんな。他の人をあたってください」ととぼける。

・証拠カード「鉱山の開発権入札」に対して

・証拠カード「商人の従兄弟」に対して

・証拠カード「臨時休業」に対して

・最低限の証拠カード「金の無心」「商人の融資」＋「臨時休業」「新月」「酒の購入」（事故前の行動）

商人「その通りです。ふとしたはずみで従兄弟に、鉱山入札についての話を振ってしまったのが不味かった。会社から脅されて、情報提供してしまったんだ。しかもあなたの友人はそれに気付いたんでしょうな。連絡を受けた私が従兄弟の会社に行った時には、彼はもう……私も鉱山の入札の件は知られたくなかったので黙っていましたが、もはやかばうのも限界です」**→真相カード「商人の独白」**

商人の言い訳集

・商人の従兄弟や臨時休業に対して「まあ、そんな従兄弟もいますが……それが何か？」

・酒の購入に対して「お客さんが欲しいといえば、私がどうだろうと買いに行くのが普通でしょう」

・融資「私が誰に何を融資しようと、私の自由では？」

**３－３「謎の襲撃者」**

1：「ダグラスか。直接の面識はないが、仕事柄多少は情報も入ってくる。彼は今奥さんと喧嘩して別居中でね。原因については、ダグラスが浮気したんだとか、いやいや浮気したのは奥さんだとか色々言われちゃいるがよくはわかってない。依頼人が警察ではなくあなたに依頼を持ち込んだのはこのあたりが理由かもしれないね」

**5番「喧嘩中の妻」を渡して下さい。**

2：「学者に行け」

3：「何も知らない」

4：「何も知らない」

6：「何も知らない」

3、4、6「それはおかしいな。しかし私としては一応容疑者の貴族様はともかく、他の二人が嘘をつく理由があるとは思えないな。一番付き合いの長いマスターなら心当たりがあるかもしれない」

7：「靴磨きに行け」

8：「貴族に行け」

9：「犯人は手袋でもしてたのかな？」

10：「これが何か？」

11：「ほお、そういうことですか、ところで、写真を見せてくませんか？」

12：「見覚えがあるようなないような……マスターなら知ってるかも」

13：「そうだったのか。学者先生もお気の毒に」

13と2or13と10：「となると、学者先生以外のところで調べてもらったほうがいいですね。　　　　　　　　　　　　貴族様にはそういう知り合いがいた気がします」

15：「灰皿にばかり目を向けるべきではないかもしれないな」

灰皿以外にもダグラスの家には指紋があるんじゃないの？と突っ込まれた場合は、貴族に誘導して下さい。